

- 5月中旬 : 不認定通知発送
 7月1日～10日: 有権者名簿縦覧
 7月11日～25日: 立候補届, 候補者推薦届受付
 8月20日まで : 立候補者氏名官報公示
 9月5日～20日: 選挙運動のために使用する葉書の
 検印
 10月中旬 : 投票用紙, 選挙公報等発送
11月25日 : **選挙期日 (投票締切)**
 11月27日～30日: 開票
 12月中旬 : 当選人氏名官報公示.

以上

附、有権者の資格審査基準要旨

有権者の資格は次の各項により審査される。

1. 学歴または研究歴——大学卒業後2年, 短大, 高専 (旧高専, 旧教員養成諸学校を含む) 卒業後4年, また研究歴5年以上。
2. 研究論文または業績報告——主として全文またはその内容を明らかにする概要等が, 著書として発表されるか, または, 学会誌, 研究機関の機関誌に発表されたもの。口頭による発表はその内容が学会誌, 機関誌等に掲載発表されて明らかにされたもの (この場合当該誌等を登録用カードに添えて提出のこと)。
3. 研究論文等の発表の時期——選挙期日前の9カ年以内 (昭和37年11月以降) であること。但し次に掲げる者については9カ年を越えてもさしつかえない。
 (1) 大学に勤務する講師以上の教職にあるもの。(2) 日本学術会議会員およびその職にあった者, 日本学士院会員, 大学名誉教授。(3) 国公立研究所等の研究機関に研究員として勤務しているもの。(4) 博士の学位を有し, しかるべき学会に所属するもの。

(庶務理事・青木)

雑報

奄美隕石孔?

地球上の隕石孔の研究はこの10年位の間に著しく進歩した。10年前に確認されていた隕石孔の最大直径は数kmだったのに, 現在では数百kmのも見つかる。この進歩の原因は, 隕石孔を確認するのに隕石衝突のときの衝撃波による変成鉱物, コーサイト, シャッターコーン等を使ったり, 磁気, 重力, 人工地震, ポーリング等の地球物理学的方法を使うようになったことによる。

日本は火山が多く, また造山, 侵蝕作用も大きくて隕石孔の発見にはあまり適していない。今までには一例だけ下保茂氏が沖縄県中頭郡宜野湾村にある星窪という地形について報告しておられる (本誌35巻48頁, 1942年)。まだ本格的な調査は行なわれていない。

さてラ・サール学園の山口, 前田, 町田の三人は奄美大島に隕石孔を思わせる円い湾があり, また, 星窪という地形もあるのを知り, 昨年7月末に調査を行なった。隕石孔ではないかと思われるものが二つある。一つは竜郷村赤尾木の根原部落にある直径約80m 深さ約4.5mの窪地で, もう一つは赤尾木を南岸とする直径3kmの湾である。ここは堆積岩からなっており, 火山である可能性は小さい。隕鉄は見つからなかったが, 砂の中から酸化鉄の球粒や, 鉄を含む鉱物が輝石, かんらん石の結晶中に内蔵されたもの等が見つかった。これらは隕石に由来するとすれば説明できるが, 他にもこういうもの原因になるものがあるかは調査中である。球粒はシベリアのSikhote Alin 隕石付近で採集されたものとよく似ている。本年3月には岩石学者も含む調査団を送り, 真偽いづれかをはっきりさせたいと思っている。

(山口志摩雄, 成相恭二)

ミネルト教授の訃報

オランダ, ヌトレヒトのゾンネボルク天文台の台長であった M. G. J. Minnaert 教授は, 永らく病氣療養中の所, 10月26日朝に御逝去されたとのことである。同教授はこれまで, 天文学の広い領域にわたり, 活躍された大天文学者であり, 今夏の I.A.U. 総会では第17委員会 (月) の委員長に選ばれていた。本誌11月号宮本正太郎氏の稿にもミネルト教授のことが書かれている。

(関口直甫)

(322頁よりつづく)

- (2) 夜光分光器用シュミットカメラ (新潟大)
 口径 130 mm F/0.7 f=91 mm 画角 12°
- (3) ニューカーク・フィルター メキシコ日食観測用
 (東京天文台)
 直径 200 mm

このフィルターは半径方向に濃度変化をもたせたフィルターで ND ガラスの厚みを半径方向に変化させて濃度を連続的に変えたフィルターで一種の非球面レンズと見なせるので列記する。